

柏市子どもの生活実態調査の結果報告及び 第2期柏市子どもの貧困対策推進計画について

令和6年度第1回
柏市子ども・子育て会議
(令和6年5月24日)

子どもの生活実態アンケートについて（前回の会議でお伝えした内容）

【調査の目的】

「令和6年度 第二期柏市子どもの貧困対策推進計画」を策定するにあたり、子育て世代の生活実態や子どもの貧困に関する現状や課題、意識やニーズを把握し、基礎資料とするために実施

【実施方法及び実施時期】

調査は郵送による調査依頼後、WEB調査方式で、令和5年12月15日～令和6年1月12日（WEB開設期間）

【調査対象及び有効回答数・有効回収率】

調査対象（調査票種類）は以下の2種で行い、総計3,000世帯（保護者・こども計6,000人）に依頼し、総計1,810件の有効回答（有効回収率30.2%）

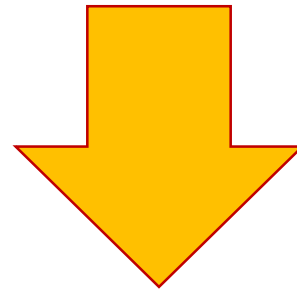
調査対象（調査票種類）	依頼数	有効回答数	有効回収率
①小学生・中学生の保護者 （小学5年生・中学2年生の保護者）	各1,500 （計3,000）	1,074	35.8%
②こども（小学5年生・中学2年生）	各1,500 （計3,000）	736	24.5%

回答内容を生活状況別で把握できるように・・・

困窮層・周辺層・一般層の3段階に分類

★分類の基準（アンケートの回答内容から）

- ①低所得要素（世帯の年間収入（税込）が等価世帯収入の中央値の2分の1未満の世帯）
- ②家計のひっ迫要素（食料，衣料，ライフラインなどの設問で「買えない」「払えない」の回答が1つ以上）
- ③こどもの体験や所有物の欠如要素（該当設問で「経済的な理由で買えない」の回答が3つ以上）



①～③の3つについて，該当する要素の数に応じて以下のとおり分類

	割合
<困窮層> = 2つ以上該当・・・・・・・・	13.2%
<周辺層> = いずれか1つ該当・・・・・・・・	16.2%
<一般層> = いずれも該当なし・・・・・・・・	70.6%

調査の概要【保護者】

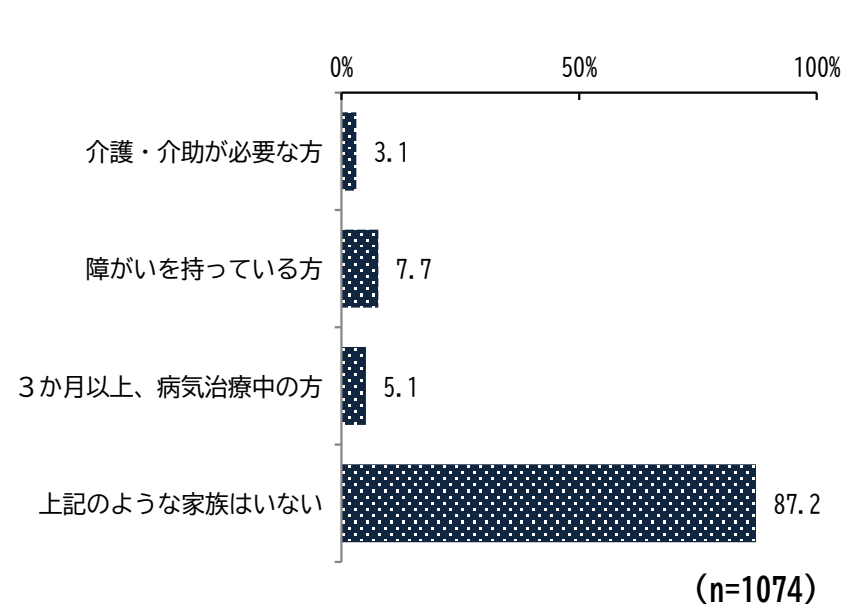
○回答者の属性

回答者の80%以上は母親であり、もっとも多い年齢層は40歳代であった。
4人家族が半数程度を占めており、介護等のケアが必要な家族は少数であった。

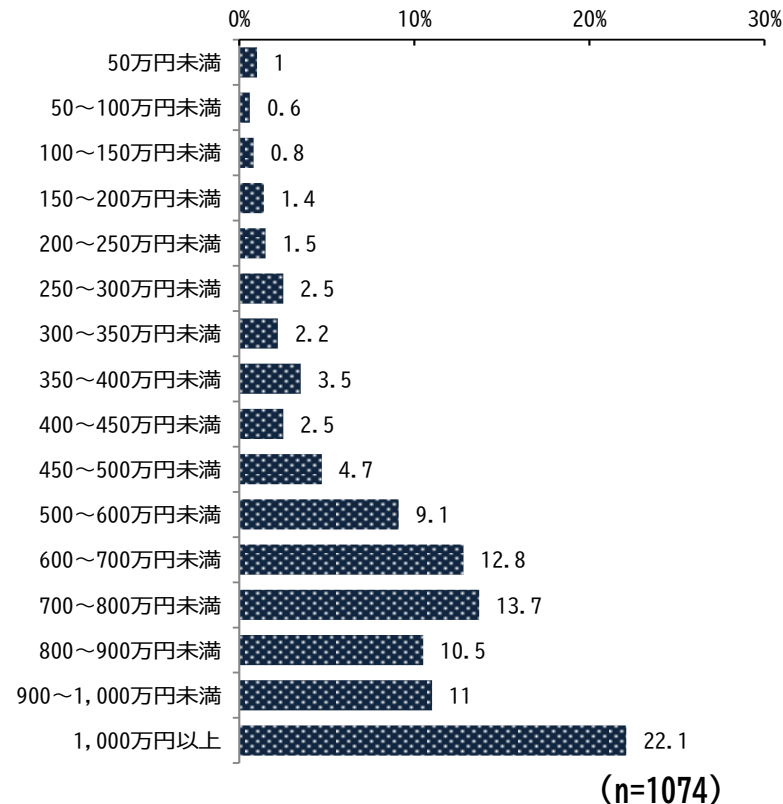
○経済的な状況や暮らしの状況について

収入分布では、収入が1,000万円を超える世帯の割合が2割超となっている一方で、『350万円未満』に該当する割合も1割程度を占めていた。現在の経済的な状況はどう感じるかの問いについて、約半数が「ふつう」と回答していた一方で、「苦しい」「大変苦しい」と回答した世帯が約3分の1を占めていた。

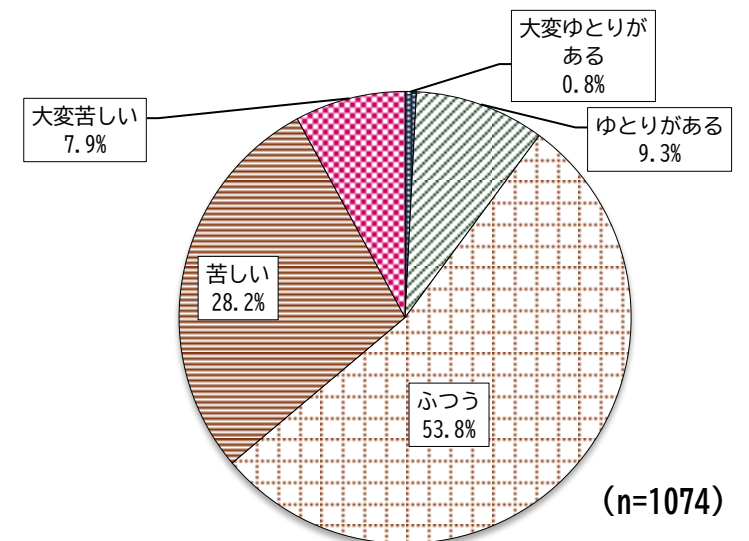
★ケア等を要する家族の有無



★世帯のおおよその年間収入



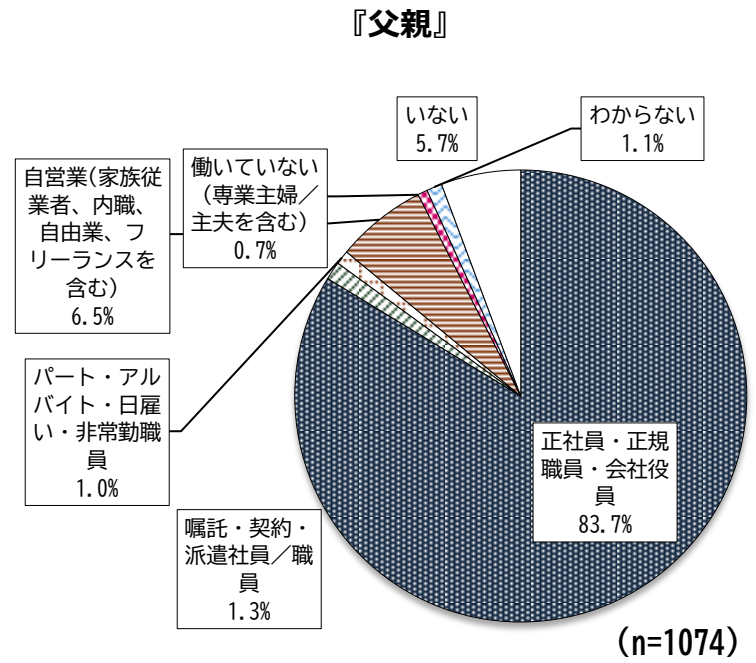
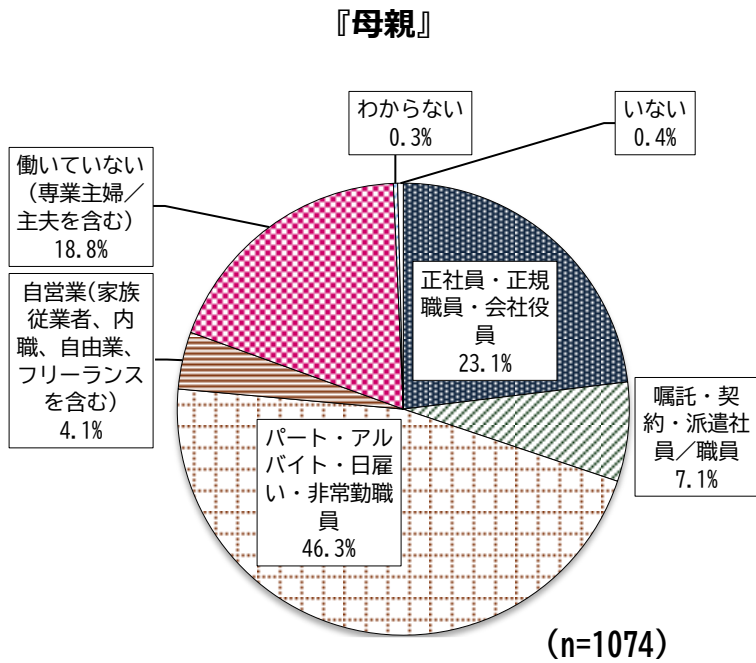
★経済的な状況感



調査の概要【保護者】

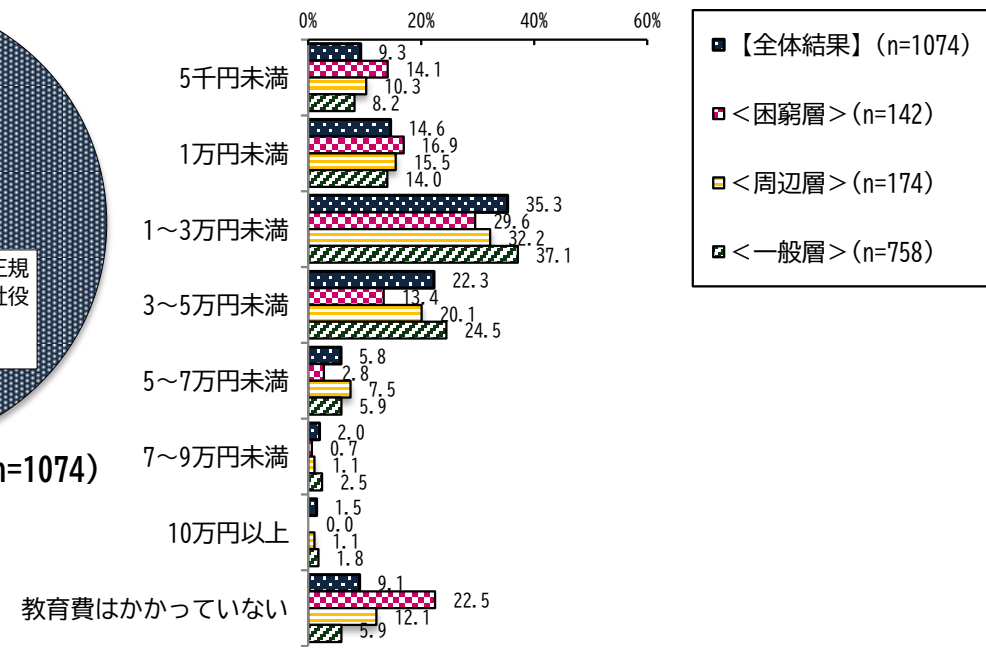
○就労の状況について
母親の多くは非正規雇用であるのに対し，父親の多数が正規雇用であった。

○教育費について
学校外の教育費は1～5万円未満が半数以上を占めていた。一方で，「教育費はかかっていない」と回答した世帯の割合は一般層と困窮層で大きな差がある。



★教育費について

【生活困難度別結果】

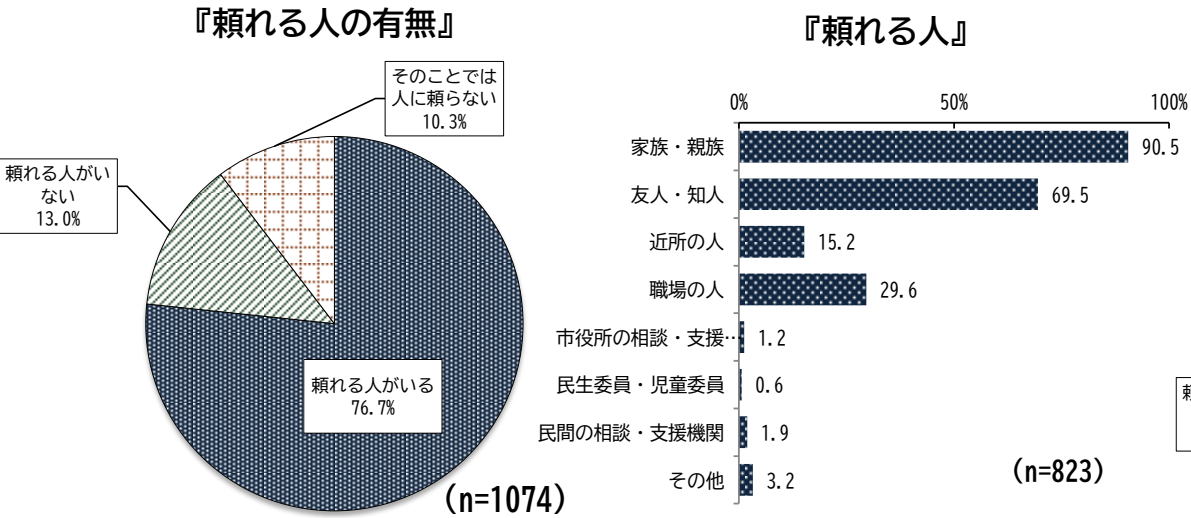


調査の概要【保護者】

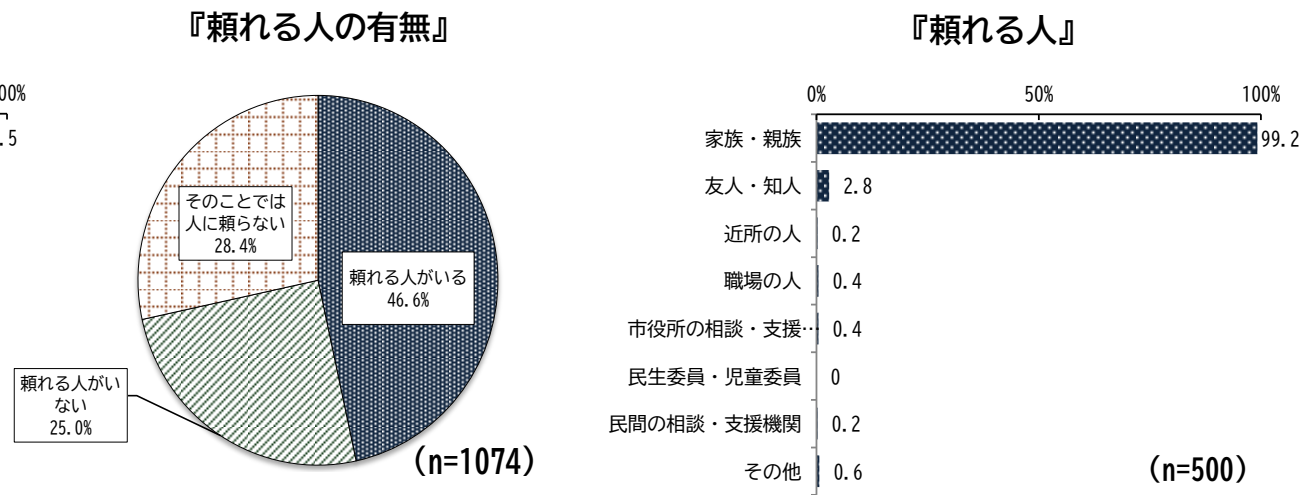
○頼れる人の有無について

子育てに関する相談や困ったときのお金の援助で、家族・親族を頼りにしているとの割合が、いずれも9割以上であった。
頼れる人がいないとの回答として、「子育てに関する相談」が13%・「困ったときのお金の援助」が25%の割合であった。

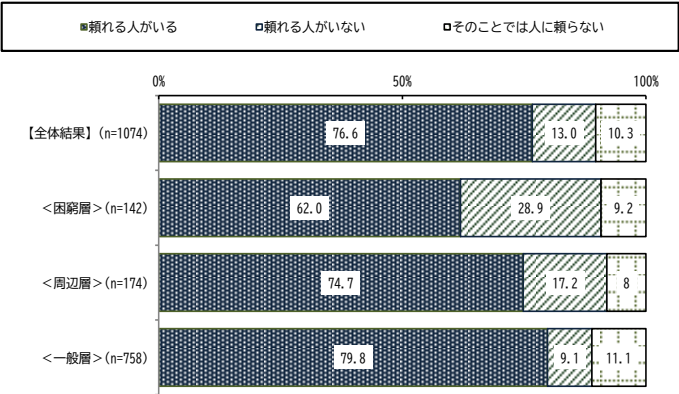
★子育てに関する相談



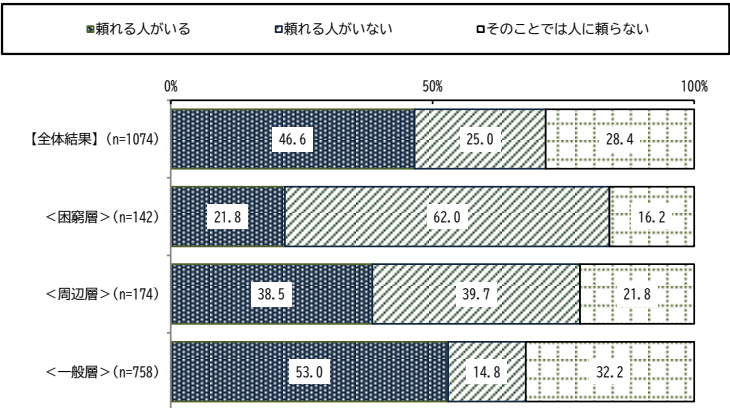
★困ったときのお金の援助



【生活困難度別結果】



【生活困難度別結果】



調査の概要【保護者】

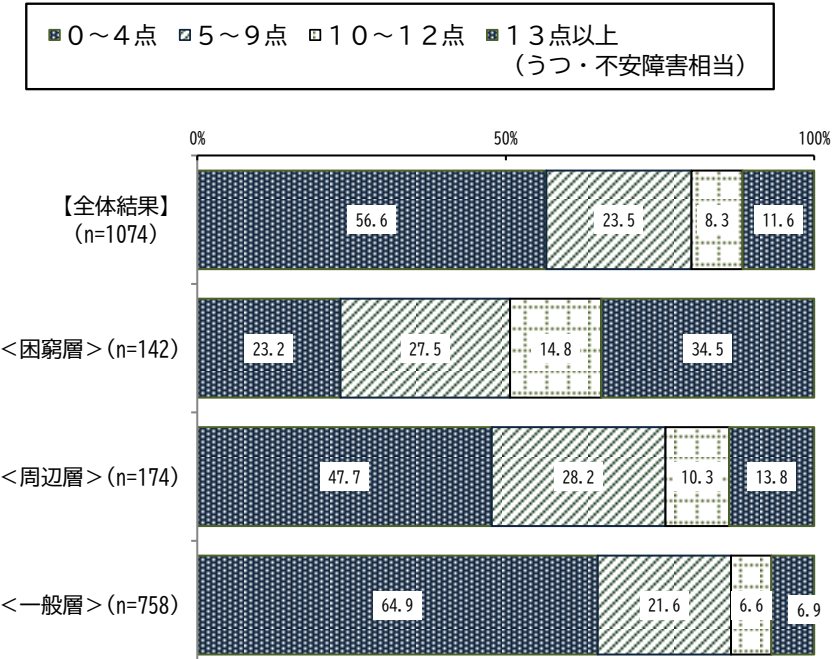
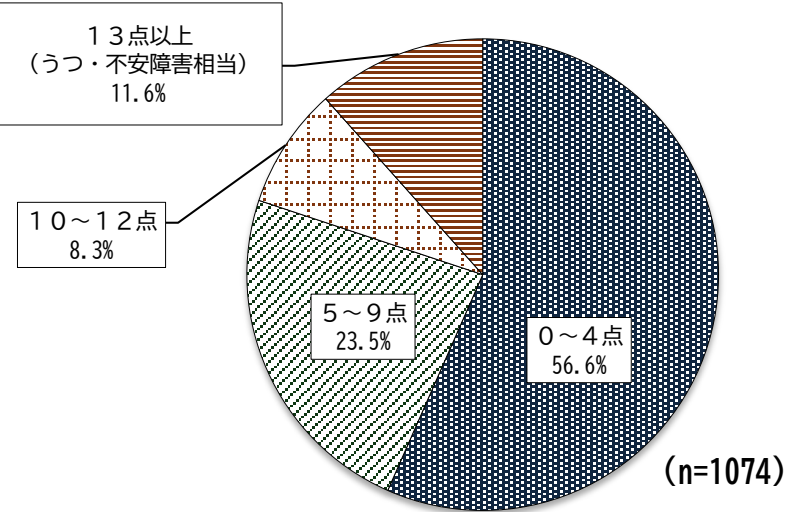
○保護者の心理的な状態や幸福感について
困窮層・周辺層では一般層と比較すると心理的な健康問題を抱える割合が高い結果であった。
幸福度は「幸せだ」と感じている人が多い。

問 以下のa)～f)について、この1か月間、
あなたはどのように感じましたか。(各SA)

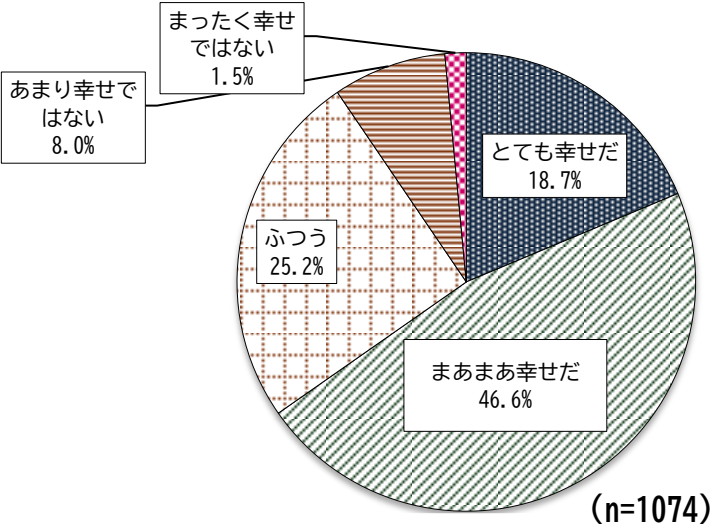
- a)神経質に感じた
- b)絶望的だと感じた
- c)そろそろ、落ち着かなく感じた
- d)気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた
- e)何をするのも面倒だと感じた
- f)自分は価値のない人間だと感じた

選択肢:

- 1 いつも感じていた <=4点>
- 2 たいていは感じていた <=3点>
- 3 ときどきは感じていた <=2点>
- 4 少しだけ感じていた <=1点>
- 5 まったく感じなかった <=0点>



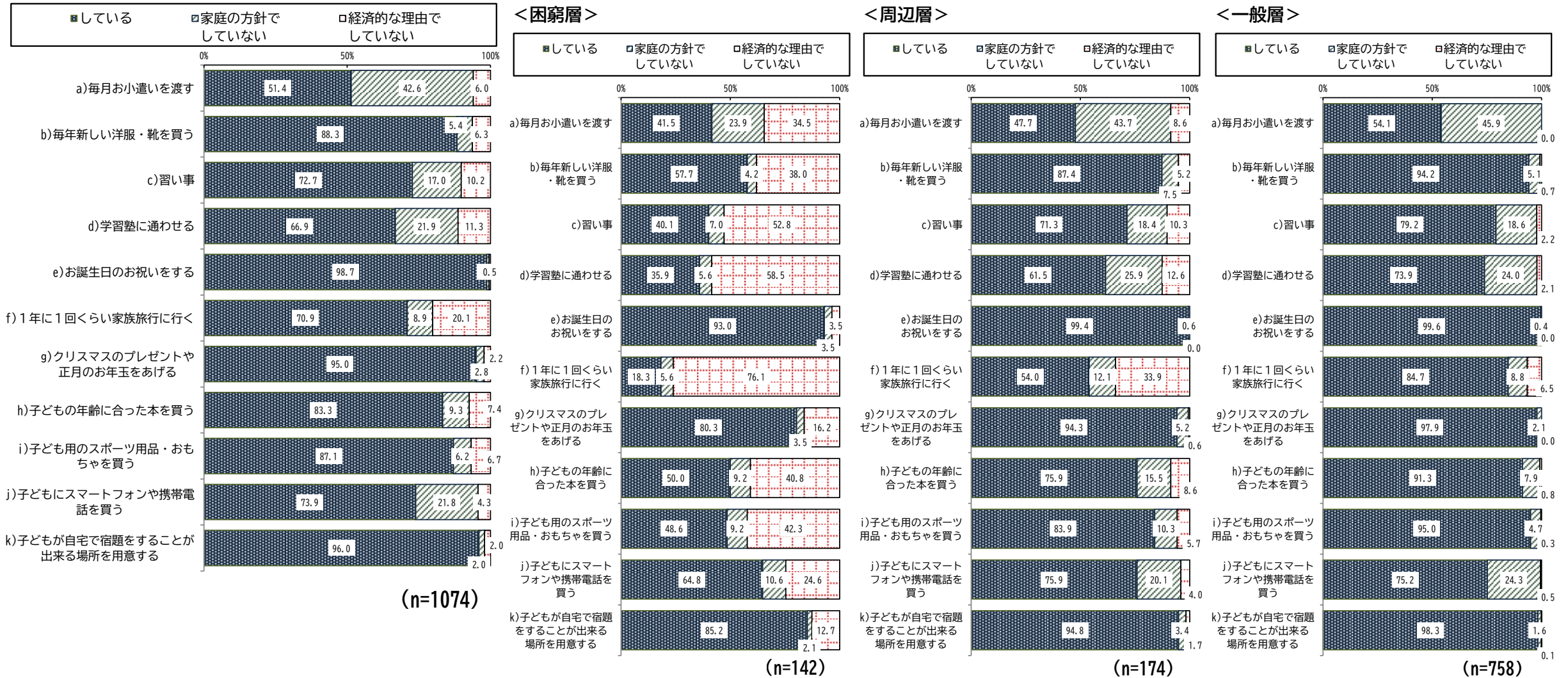
★幸福度について



調査の概要【保護者】

○子どもにしていることや体験等について

困窮層・周辺層・一般層で比較すると、困窮層では「経済的な理由でしていない」との割合が高い。

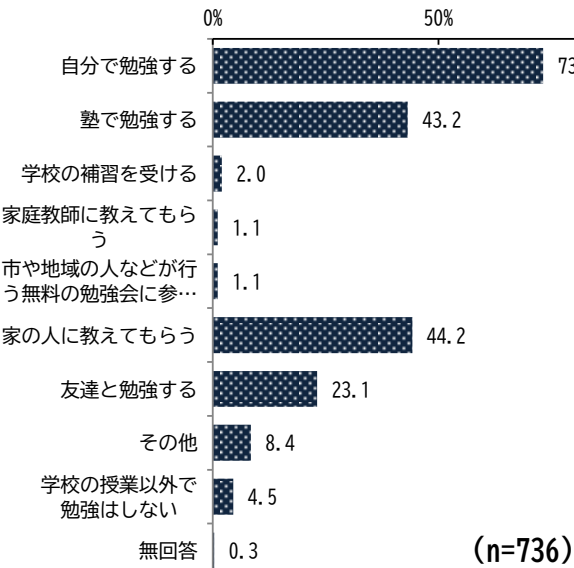


調査の概要【こども】

○学習などについて

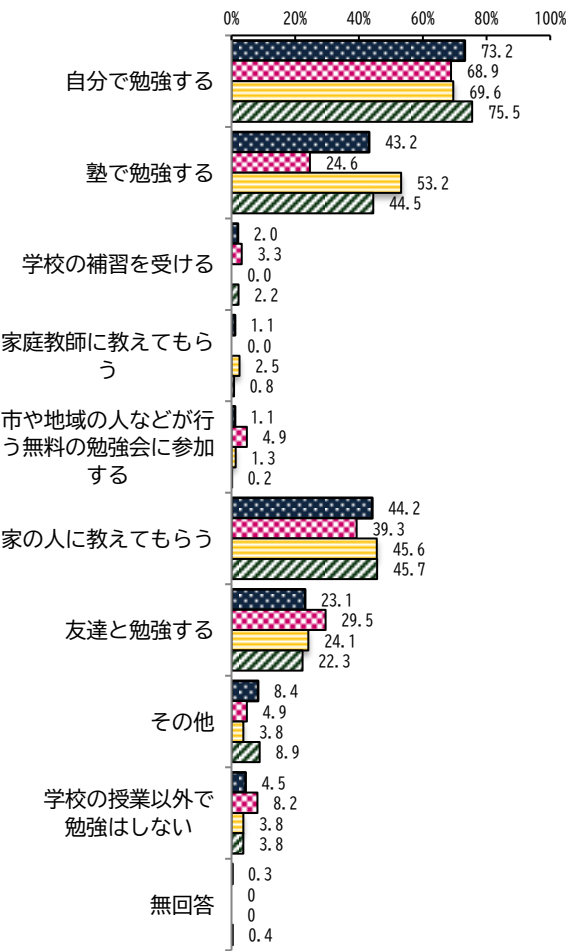
多くのこどもが授業以外では自分で学習をしており，平日の学習時間にはばらつきがある。自己評価の成績は「真ん中より上」と回答するこどもが多く，困窮層では「真ん中くらい」がもっとも多かった。

★授業以外の学習

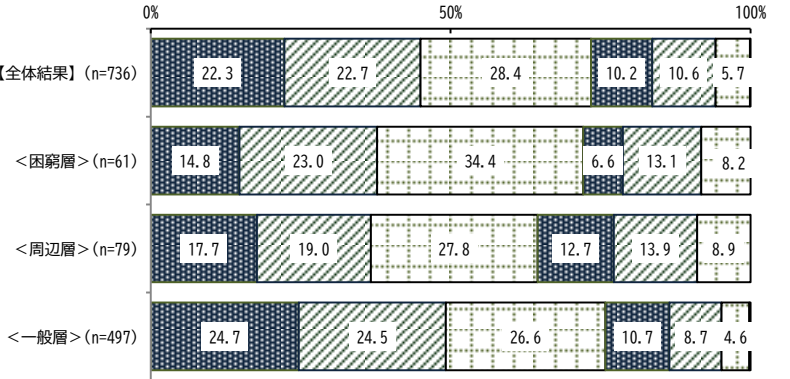
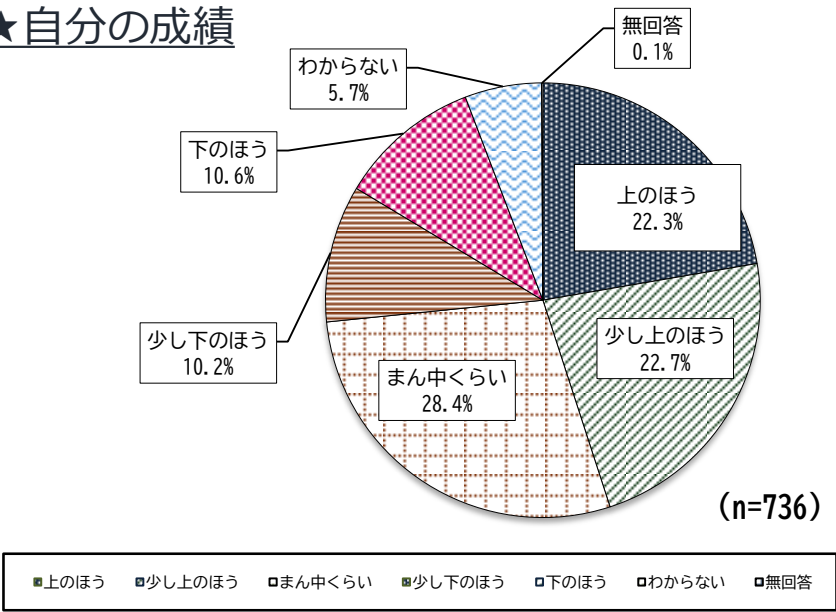


(n=736)

【生活困難度別結果】



★自分の成績

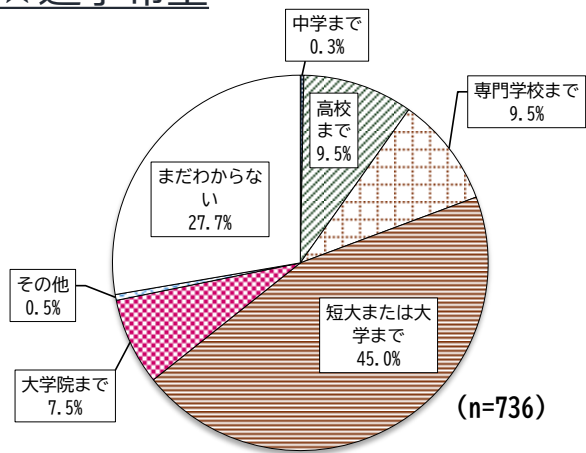


調査の概要【こども】

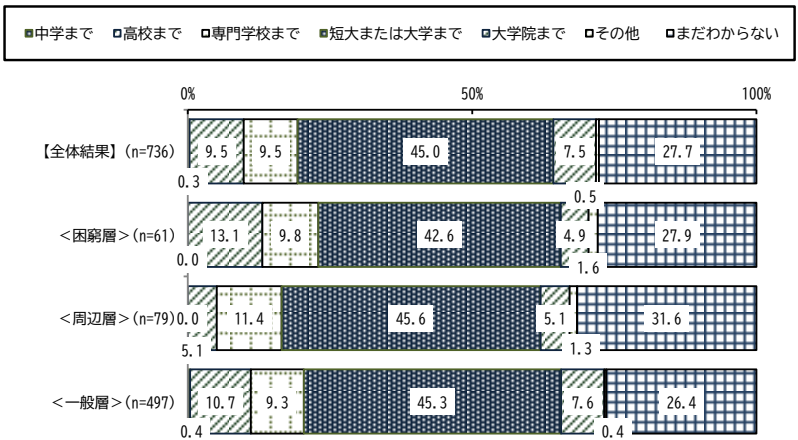
○進学希望や将来の目標について
多くのこどもが大学進学を希望しており，理由は将来の夢や目標に関連していた。

○習い事の状況について
習い事をしているこどもが全体で78.5%と多いが，困窮層で習い事をしているとの回答は59%であった。
習い事をしていない理由として，「費用がかかるから」と回答した割合が周辺層と困窮層で高い結果であった。

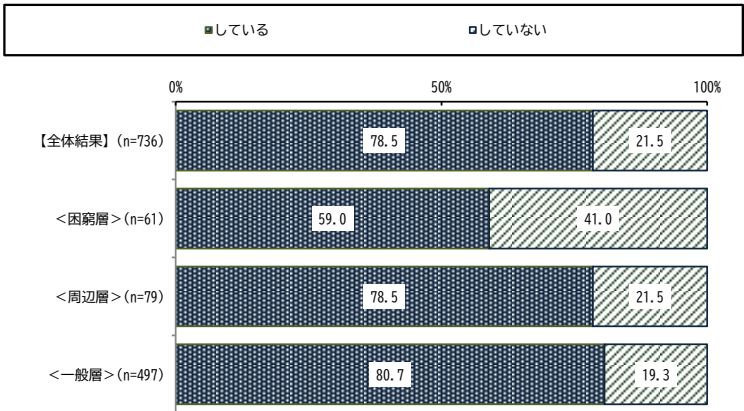
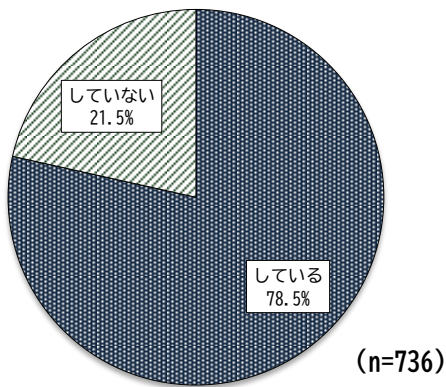
★進学希望



【生活困難度別結果】

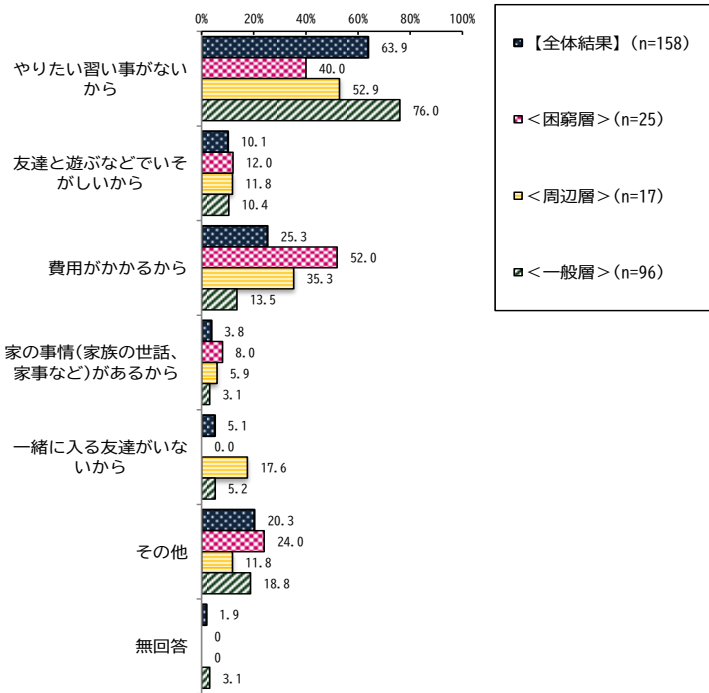


★習い事



★習い事をしていない理由

【生活困難度別結果】



調査の概要【こども】

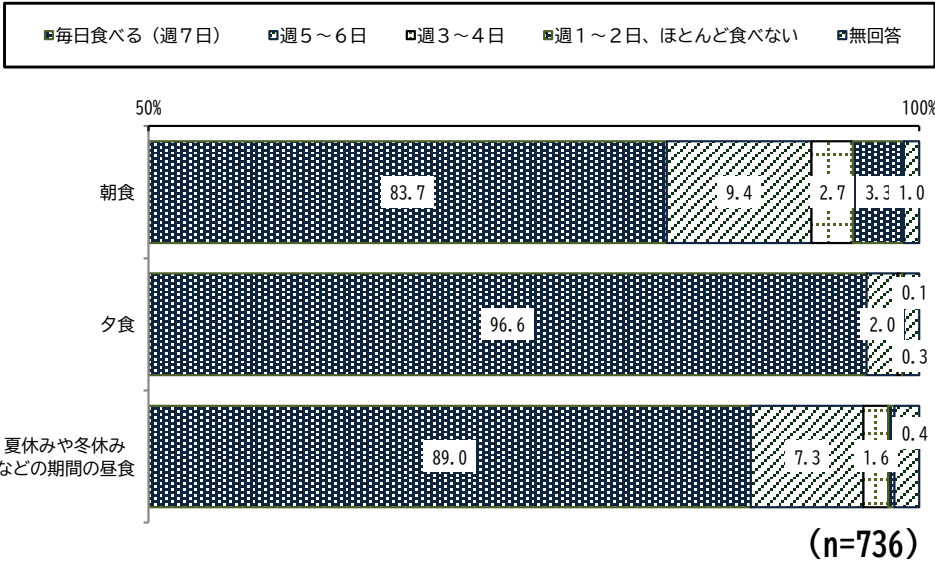
○食生活や日常生活等の状況について

多くのこどもが毎日朝食をとっており，夏休みなどの長期休みの期間も9割弱が昼食を食べていると回答している。
就寝時間は80%以上が「同じ時間にねている」との回答である。

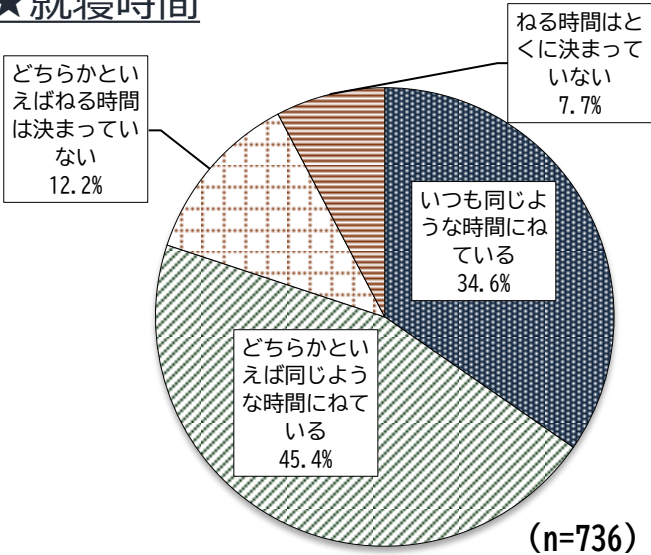
○相談できる人について

多くのこどもは，相談できる人として「親」「学校の友達」を挙げている。

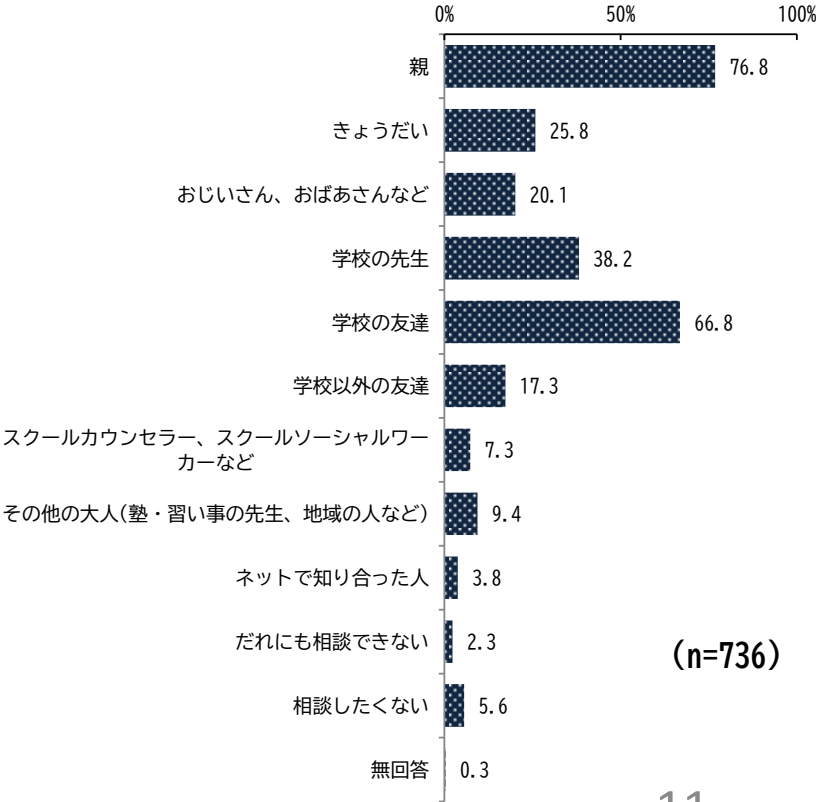
★食事の状況



★就寝時間



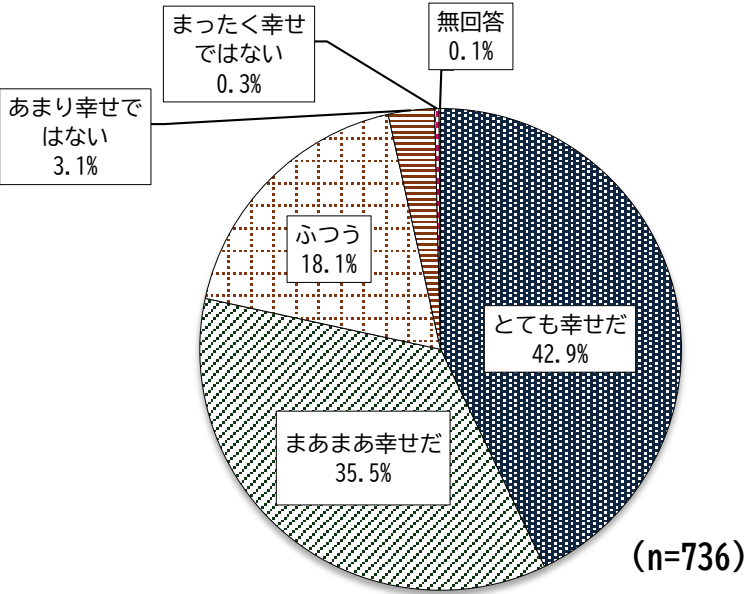
★相談できる人



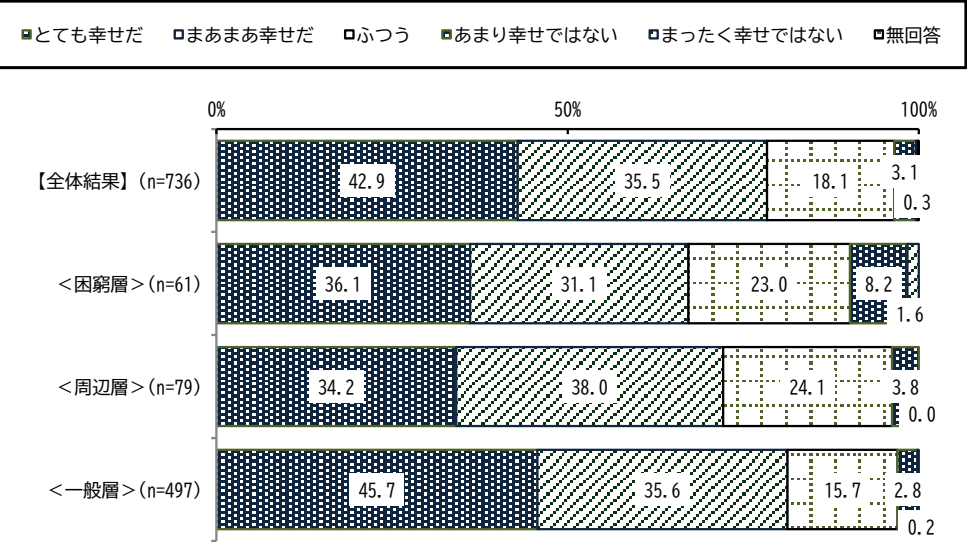
調査の概要【こども】

○子どもの幸福度について
こども自身は、「幸せだ」と感じているこどもが多いものの、困窮層は、他の層と比べ「あまり幸せではない」「まったく幸せではない」と回答した割合が高い。

★幸福度について



【生活困難度別結果】



第2期柏市子どもの貧困対策推進計画の策定について

以下内容は令和5年第2回 柏市子ども・子育て会議にて報告

【趣旨】

第1期柏市子どもの貧困対策推進計画【平成29年度～令和4年度】の計画期間満了に伴い、新たに第2期計画を策定しようとするもの。

※令和5年度から第2期計画の開始時期ではあったが、以下の理由から策定事務を変更

- 長引くコロナ禍の影響により、通常期とは異なった状況下で長期計画を策定することに実効性が少ないこと。
- こども部で策定している他計画や国の大綱、県の計画等との時期的なズレ、施策対象の重複、国からの複数計画の共同化方針などを考慮したこと。

【概要】

子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることなく、子どもたちが健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図り、子どもの貧困対策を総合的に推進するための計画。国が令和5年12月に策定した「こども大綱」におけるこどもの貧困対策の内容を勘案して策定する。

【策定の流れ】

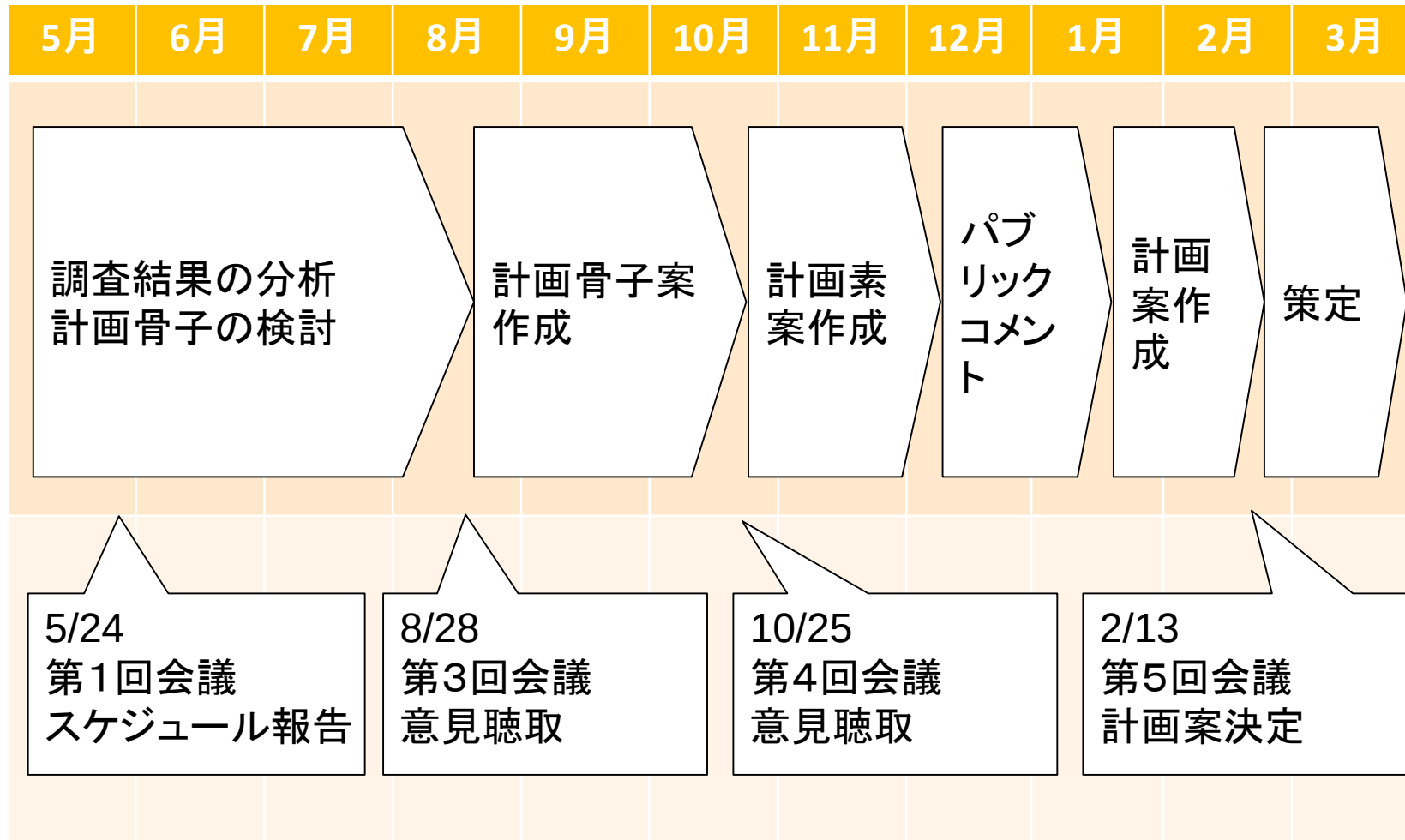
柏市子どもの生活実態調査及び子どもの生活実態アンケートの結果を踏まえて計画案を策定し、子ども・子育て会議において委員の皆様にご意見をいただきたい。

【その他】

「第2期柏市子どもの貧困対策推進計画」及び「第4期柏市ひとり親家庭等自立促進計画」をそれぞれ策定した上で、両者をひとつの冊子にまとめて発行する。

第2期柏市子どもの貧困対策推進計画の策定について

【計画策定スケジュール】



※第4期柏市ひとり親家庭等自立促進計画の策定スケジュールと同じ